

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02082

研究課題名(和文)日本におけるセクシュアルマイノリティの出産・育児の実態把握に関する研究

研究課題名(英文) A Research on the Conditions of Childbirth and Childrearing among Sexual Minorities in Japan

研究代表者

新ヶ江 章友(Shingae, Akitomo)

大阪市立大学・人権問題研究センター・教授

研究者番号：70516682

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本在住の性的マイノリティがどのように出産・子育てを行なっているのかを把握することを目的とした。調査方法は、性的マイノリティの出産・子育てをしている自助グループでのフィールドワークおよび参与観察である。近年、性的マイノリティで出産・子育てに関心を持つ人々が増えており、特にレズビアンによる出産・子育ての関心が高い。レズビアンの中には出産するために精子ドナーを探し、実際に妊娠・出産を行なっているものもいる。しかし、同性婚をめぐる法整備の不備のために、レズビアンマザー、精子ドナー、子の関係は法的に不安定な状況に置かれていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

性的マイノリティにおける出産・子育てをめぐる研究は欧米社会では盛んに行われ研究蓄積がある一方、日本をはじめとするアジア諸国の実態についてはほとんど明らかとなっていない。本研究では、日本で性的マイノリティが実際にどのようにして出産・子育てを行おうとしているのかを質的調査法を用いて明らかにした。本研究の結果は、今後の日本における性的マイノリティの出産・子育てをめぐる施策を展開する際の基礎的情報となり得る。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to understand how sexual minorities in Japan give birth and raise their children. The research method was fieldwork and participant observation at a self-help group for sexual minorities who are giving birth and raising children. In recent years, the number of sexual minorities who are interested in childbirth and child rearing has been increasing, and lesbians are especially interested in childbirth and child rearing. Some lesbians have been searching for sperm donors for childbirth, and have actually conceived and given birth. However, due to the inadequacy of the laws surrounding same-sex marriage, the relationship between lesbian mothers, sperm donors, and their children has been found to be legally unstable.

研究分野：文化人類学

キーワード：LGBT 出産 育児 生殖医療 生権力 代理母 養子縁組 里親

1. 研究開始当初の背景

日本における性的マイノリティを取り巻く政治・経済的状況は、とりわけ2015年以降大きく変化している。政治的状況としては、東京都渋谷区や世田谷区、兵庫県宝塚市、三重県伊賀市などをはじめ、2021年5月の段階で100以上の地方自治体が、同性間パートナーシップを男女の婚姻関係と同等であると承認する要綱等を制定している。一方国会議員も、超党派での同性婚の法制化を目指す議員連盟を立ち上げており、性的マイノリティのパートナーシップを法的に認めていこうという政治的動きが、近年活発化している。また経済的状況としては、企業経営におけるダイバーシティ促進の一環として性的マイノリティが着目されている。企業内のダイバーシティ経営の促進は、ハラスメントなどの性的マイノリティの労働環境の改善のみならず、多様な考え方をもちた人材が企業を活性化させるという考えのもとに、性的マイノリティをはじめとした多様な人材登用が促進されている。また企業は、性的マイノリティを消費主体とすることで、経済資源とみなしてもいる。

このような社会状況とともない、性的マイノリティが日本国内において次第に認知されるようになる中、同性同士で子供を産み育てるという選択をする者たちも現れてきている。例えば柳原らの研究によると、日本のレズビアンカップルで子育てをしている場合には、次の3つのパターンがある。一つ目は、離婚した男性との間に生まれた子をパートナーと共に育てるパターン、二つ目は、非配偶者間人工授精(AID: Artificial Insemination with Donor)を利用するパターン、三つ目は、養子縁組を行うパターンである(柳原 2007)。一方、レズビアンカップルの子育てについては、生まれてきた子の法的保障や子が出自を知る権利、血縁家族との人間関係などをめぐって議論がなされてきた。とりわけ、同性カップルの生殖医療の利用に関する研究は、法的整備が十分になされていないことが指摘されている(南 2011)。日本におけるゲイ男性カップルの子育てに関する研究に至っては皆無である。

柳原良江「拳児・子育て希望者の多様化がもたらす課題：同性愛カップルの事例から」『生命倫理』17(1):223-232、2007年。

南貴子「生殖補助医療の法制度化における課題」『愛媛県立医療技術大学紀要』8(1):11-18、2011年。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の性的マイノリティがどのように出産・育児を行っているのかを、主に参与観察と聞き取り調査によって明らかにしようとするものである。近年、日本の性的マイノリティをめぐる政治・経済的状況は大きく変わってきている。その結果、性的マイノリティで、子供を産み、育てる関係が築かれつつある。これまで文化人類学や社会学の分野では異性愛カップルにおける生殖医療に関する研究は進められてきたが、とりわけ日本においては、性的マイノリティの出産・育児に関する調査研究は限定的範囲にとどまっている。本研究では日本の性的マイノリティの出産・育児についての聞き取り調査を実施し、文化人類学における親族研究への新たな視座を提供する。

3. 研究の方法

本研究では、性的マイノリティを主たる調査対象者とし、聞き取り調査に基づく語りのデータ収集、人的ネットワークのなかでの参与観察、聞き取り内容の分析・考察を行う。聞き取り調査では、性的マイノリティのカップルが出産・育児を行うに至る過程、それを行う手段、親族との関係について詳細な聞き取りを行う。同時に彼ら/彼女らの間でどのような人的ネットワークが構築されているのかを、フィールドノートに記録していく。また調査の結果は、書籍や報告書のかたちで公開する他、随時、国内・国際学会報告や投稿論文により発表する。

4. 研究成果

調査者は2018年2月から、A市に活動拠点をおく性的マイノリティの出産・子育て支援を行う自助グループでフィールドワークを開始した。2021年5月現在で、コアメンバーはレズビアン9名、ゲイ1名である。この活動に対する賛助会員は2021年5月現在で80名ほどであった。活動内容としては、これから出産・子育てを行いたいと考えている性的マイノリティに対する初心者講習会、精子ドナーとレシピエントのマッチングイベント、性的マイノリティに育てられている子供たちとその親同士の交流会、海外で同様の活動をしている団体との交流、海外の精子バンクとの交流などである。

自助グループでのフィールドワークを通して明らかとなったことは、日本では生殖補助医療の利用は異性間の不妊カップルに限定されているため、レズビアンが病院で出産を行う場合に

性的マイノリティの社会・文化的背景を医療機関に理解してもらえないこと、同性カップルでの特別養子縁組制度が利用できないために生殖補助医療を利用した出産を行わざるを得ないこと、精子ドナーと書面上の契約を行なっていなかったために子の出産後にトラブルが生じることがあり得ることなどである。

出産・子育てを考えているレズビアンが精子ドナーにアクセスする方法としては、海外の精子バンクでの精子の購入、インターネット上で運営されているボランティア男性による精子の取引、自助グループが企画する精子ドナーとレシピエントとの交流会での交渉、レズビアンとゲイの「友情結婚サイト」を介した交渉、友人・知人からの精子提供などがあった。

結論としては、日本においては性的マイノリティ間での出産・子育てに関する医療・行政・法的支援が何もないために、実際に出産・子育てをしたいと考える性的マイノリティにはそもそも出産・子育てに関する情報が不足しており、自助グループによる活動を通じたネットワーク形成が、当事者たちにとって極めて重要なサポートの役割を果たしていることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 新ヶ江 章友	4. 巻 83
2. 論文標題 砂川秀樹著 『新宿二丁目の文化人類学 ゲイ・コミュニティから都市をまなざす』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 664 ~ 667
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.4_664	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 新ヶ江章友	4. 巻 15(2)
2. 論文標題 文献探訪 : ゲイリー・リュース『男色の日本史 : なぜ世界有数の同性愛文化が栄えたのか』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪市立大学大学教育	6. 最初と最後の頁 91-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 新ヶ江章友	4. 巻 52(7)
2. 論文標題 自民党「日本国憲法改正草案」とセクシュアルマイノリティ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 368-373
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 新ヶ江 章友	4. 巻 82
2. 論文標題 Noriko Ijichi, Atsufumi Kato, Ryoko Sakurada (eds.) <i>Rethinking Representations of Asian Women: Changes, Continuity, and Everyday Life</i>	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 405 ~ 408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.82.3_405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新ヶ江章友	4. 巻 13
2. 論文標題 書評 前川直哉 『<男性同性愛者>の社会史ーアイデンティティの受容/クローゼットへの解放』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 共生社会研究	6. 最初と最後の頁 40-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 新ヶ江章友
2. 発表標題 日本におけるセクシュアルマイノリティによる生殖医療の利用
3. 学会等名 大阪市立大学人権問題研究センター 第148回サロンde人権
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新ヶ江章友
2. 発表標題 日本におけるセクシュアルマイノリティによる生殖医療の利用ーレズビアン女性とゲイ男性はいかにして出会うのか
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akitomo Shingae
2. 発表標題 Use of Reproductive Medicine by Sexual Minorities in Japan: How Lesbian Women and Gay Men Meet
3. 学会等名 IUAES 2019, Poznan, Poland (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新ヶ江草友
2. 発表標題 日本における同性愛者と国家－エイズ、同性婚、生殖医療
3. 学会等名 ソウル大学日本研究所 第236回日本専門家招聘セミナー（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新ヶ江草友
2. 発表標題 日本におけるLGBTによる生殖医療の利用－レズビアンによるゲイからの精液の受容に関する過程から
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「グローバル化時代のサブスタンスの社会的布置に関する比較研究」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新ヶ江草友
2. 発表標題 日本における同性パートナーシップ制度とLGBTの出産・子育てをめぐる調査から
3. 学会等名 一般社団法人Marriage For All Japan - 結婚の自由をすべての人に しゃべろう！同性婚@大阪（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akitomo Shingae
2. 発表標題 Building New Relationships with Childbirth and Childcare among Lesbians Living in Japan
3. 学会等名 The 18th IUAES World Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新ヶ江章友
2. 発表標題 日本における同性パートナーシップと同性婚に対する当事者の意識（日韓ジョイントパネル2018：日韓の社会運動－現場と研究をつなぐ）
3. 学会等名 第91回日本社会学会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新ヶ江章友
2. 発表標題 サブスタンスとしての精液の交換－ゲイ男性の人間関係の構築をめぐる予備的分析
3. 学会等名 国立民族学博物館「グローバル時代のサブスタンスの社会的布置に関する比較研究」研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akitomo Shingae
2. 発表標題 The Enactment of Ordinances on Same-Sex Partnerships by Japanese Local Governments: The Involvement of LGBT People in the Enactment of the Ordinances
3. 学会等名 24th Annual Japan Association Conference, Hawaii, USA（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川坂和義（発表者）、新ヶ江章友（コメンテーター）
2. 発表標題 <日本>は<クィア>か？
3. 学会等名 国際基督教大学ジェンダー研究センター公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新ヶ江章友
2. 発表標題 乖離する性行為と生殖 セクシュアルマイノリティによる生殖補助医療技術の利用実態から見た出産・子育て
3. 学会等名 第 15 回人類学関連学会協議会(CARA)合同シンポジウム「性差」(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 澤野美智子(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 医療人類学を学ぶための60冊	

1. 著者名 日下渉、伊賀司、青山薫、田村慶子(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 東南アジアと「LGBT」の政治 : 性的少数者をめぐって何が争われているのか	

1. 著者名 岩淵功一(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 240
3. 書名 多様性との対話 : ダイバーシティ推進が見えなくするもの	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	ソウル大学日本研究所			